

## 第57回全国肢体不自由教育研究協議会高知大会

\*大会主題：自立と社会参加 につなげる特別支援教育 ー確かな授業改善を目指してー

平成23年11月16日（水）から18日（金）

\*本校から校長を始め5名が参加。この研修の内容を校内で共有し、活用することによって授業改善等に努めていきたいと思いをします。

### (1) 文部科学省特別支援教育調査官 下山直人 様

\*障害者制度改革の経緯・・・H23.7 障害者基本法の一部改正

・障がい者が十分な教育を受けられるようにするため可能な限りともに学ぶ教育を受けられるように配慮。

\*「ともに学ぶ」ことについて・・・特別支援教育のあり方に関する特別委員会

・それぞれの子どもが授業や活動を理解し参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごせて、生きる力を身につけていけるかどうか、これが最も本質的な点であり、そのための条件整備が必要である。

\*介護職員等による痰の吸引等の実施のための制度について

・平成23年6月に一部改正、平成24年4月施行、現在の実施者については経過措置

・基本的な仕組み：介護職員等（教員）が登録研修機関で一定の研修を受講。登録事業所（学校）の介護職員等（教員）が痰の吸引等を実施

・教員が法律に基づく行為（違法性の阻却から一定の手続きで知事が認定）

・子どもたちにとっては地域につながる、社会参加できる仕組みである。

・検討会議を設置し具体的な内容について検討中。（文科省）

\*特別支援学校の課題（特別支援学校に求められること）

・一人一人に対する教育の充実：ここに特別支援学校の存在意義がある。

・地域生活や卒業後の生活につながる取り組みの推進：自立と社会参加を視点にした取り組み（授業改善、交流・地域支援の推進）

・生きる力を育む教育の充実：授業改善、教育課程の検討、指導体制の見直し

### (2) 授業改善に関する取り組みについて（事例発表）

\*アドバイザーの飯野順子先生より

「授業に必要な構成要素」

- ① 子どもが活動する「子ども主体」の授業に向けて、子どもが主体的に動く状況づくりをしている。
- ② 子どもの自己選択・自己決定・自己確認に基づく主体的な活動を設定している。
- ③ 具体的で明確な実態把握に基づき、その時点で教育的ニーズに最も的確にこたえる目標・評価の設定をしている。
- ④ 子ども自身が「授業の中で何を体験しているのか、何を学んだのか」をわかる状況づくりをしている。
- ⑤ 活動の結果「できたか、できなかったか」が自分でわかる教材作りをしている。
- ⑥ 子どもの内面を動きのある豊かな活動世界として想像し、その活動を意味づけ、仮説をたてておく。
- ⑦ コミュニケーション能力を高めるために、子どもに応じた言語活動を設定する。
- ⑧ 授業のテンポやリズム、間とゆとりを子どもの活動に即して設定している。
- ⑨ 意欲的に集中して学習活動に取り組める姿勢づくりをしている。
- ⑩ 個々の児童生徒が活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることのできるような指導内容を取り上げている。